

令和7年度 全国学力・学習状況調査（6年生88名実施）の結果から

我孫子市立高野山小学校

学力向上委員会

国語

○観点別正答率

- ・すべての観点項目で全国平均を上回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「選択式」の正答率については、平均より上回っている。
- ・「短答式」の正答率は、平均よりやや下回っている。
- ・「記述式」の正答率については、県平均より上回るが、全国平均より下回っている。

算数

○観点別正答率

- ・「データの活用，図形」の観点について、平均より上回っている。
- ・その他の「数と計算，測定，変化と関係」の三つの領域は平均よりやや下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「選択式，短答式」は全国平均を上回っている。
- ・「記述式」が全国平均を下回っている。

理科

○観点別正答率

- ・すべての観点項目で全国平均を上回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「選択式，短答式」は全国平均を上回っている。
- ・「記述式」が全国平均を下回っている。

児童質問紙調査

○ICTを活用した学習状況の数値が向上していることから、ICTを活用した授業を推進していることの成果が見られると判断できる。また、学習習慣や自己有用感については昨年同様の数値を維持していることから、各学級での取組や教育相談等の対応の成果と捉えることができる。しかし、各教科への意欲に関する数値が昨年度より下回っていることから、それぞれの項目に相関があるわけではないことがわかる。授業の導入の工夫や「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に努めることで、児童が見通しをもって意欲的に活動に取り組むことができるだろう。生活に根差した学習の工夫をし、実感的理解につなげていくことが必要である。

<結果からわかる成果と課題への取り組み> ○…成果 ▲…課題

【国語】

「話すこと・聞くこと」

○インタビューの仕方を考える問題で、発言者の意図や理由、目的を考えることができ、平均を上回っている。

○普段の学習成果として、話し合い活動の意図を理解し活動ができている児童が増えている。

▲発言の内容を要約し説明した分を選択する問題では、内容理解が乏しいことが数値からうかがえる。一度発信、納得した内容を再度聞かれることで、内容理解が難しい児童が一定数いる。

<授業改善>

- ・協働的な学びを行う上で、互いの意見を聞き合い、また第三者に伝え合う場を設定することで、相手の思考を理解するきっかけをつくる。

「読むこと」

○国語の学習だけでなく、他教科でも子供たちの対話する場面を設定することで、話し合いの様子を想起する問題では適切な会話文になる答えを回答できている。また、問題の空欄に当てはまる続きの言葉を抜き出したり、選んだりする問題も平均を上回る正答率となっている。

▲資料を読み取り、要約して理由を書く問題は無回答が多く、正答率も平均を下回る結果となった。

<授業改善>

- ・学習だけでなく、生活場面の中でも、意図的に自分の考えを話す場を設定することで、より力を伸ばしていきたい。

「書くこと」

○様子を表す説明文を読んで、言葉と図で説明した理由を適切な言葉を選ぶ問題は全国平均を上回ることができている。

○指定されている言葉に対し調べた言葉を基に詳しく書く問題は、全国平均を上回ることができている。

▲文章の工夫は理解しているものの、適切な回答を選択できずに、間違った回答をしている児童が一定数いる。

<授業改善>

- ・毎年言われていることだが、日常的に書く場面を多く設定し、認め承認する場面を多く設けることで、苦手意識を少しずつでも解消していく。
- ・書くことについても、より具体的なものを書くようにし、交流等を通して、書くことが楽しいと思えるような活動を設定すること。

例) ×読んだ後に感想を書きましょう ➡ ○このお話の中で一番好きな場面を書きましょう (理由も)

×書いたものを発表 ➡ ○みんなでノートを持ち寄って、同じ場面の人を見つけ、理由を交流等

- ・協働的な学び、話し合い活動を通し、他者の意見との相違点を考えさせる時間を設定し、書き出す活動を取り入れ深い学びにつなげていく。

「問題形式」

○今回の調査では例年に比べると問題形式に関係なく、無回答の児童が少なく、問題内容を読解する力や解決しようとする前向きな力が付いてきているのではないかと考える。

▲記述式の問題で一定数の児童が無回答である。書く力の底上げが必要である。

- ・国語だけでなく、様々な教科で、知識理解の向上を図るため、教科書を読んだり、問題解決学習を通して達成感を味わったりすることを今後も行っていく。また、作文教材では書く必要性、書きたいと思える教材発掘に努め、授業改善をしていく。

【算数】

「数と計算」

- ブロッコリーの出荷量の比較の問題では棒グラフからの読み取りで何倍かを求める問題で平均を上回っている。
- ピーマンやブロッコリーの重さを求める問題は立式し答えを求める問題で平均を上回っている。
- 少数の計算では、単位数を揃えて計算する問題で平均を上回っている。
- ▲分数の問題で1を何等分するのかという数値的概念が乏しく、数直線上の整数を分数に直す問題や、分数の計算で平均を下回っている。
- ▲ 答えを求める問題ではない、単位分数のいくつ分になるか考える問題の正答率が低くなっている。

＜授業改善＞・一人学びで多くの考えを思考できるようにする。また、自分の考えを式図だけでなく、数直線や具体物の操作で説明する場を設定する。

- ・習得した知識を活用する。発展問題に多く取り組む時間を、授業の中で意図的に設ける。
- ・授業内の習熟問題だけでなく、繰り返し問題を解き進めるために「計算タイム」を活用して取り組む。

「図形」

- 角を作る二つの辺の位置関係に着目して、図形の角の大きさについて答える問題は、理解している児童が全国の平均と同等の正答数いる。
- 示された平行四辺形をかくために、コンパスの針をどこに刺すのか、コンパスの長さはどれだけ開くのかを考える問題で、平均を上回っている。
- ▲多角形の面積を求めるために図形を分解して求める問題は、問題の読解が苦手で内容理解に至っていない児童が多くいる。

＜授業改善＞・習得した知識を活用する時間を、授業の中で意図的に設ける。

例) 図形の情報を基に、作図する練習問題を行う。

(できれば、作図だけでなく、言葉でも説明できるようになど工夫して)

- ・授業の中に、自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面を設ける。また、図形の定義を再認識させるため、再度説明させる。

例) どんな図形になるかな?⇒なぜその図形になるのか伝え合いましょう。

小さなことだが、このように相手に伝える習慣をつけることで、説明するための素地を培う。

「測定」

- ▲はかりで示された目盛りを読む問題で、平均を下回っている。

＜授業改善＞・デジタル社会になっているからこそ、アナログの目盛りを読むことを授業内で位置づけ、実践していくことで技能の習得を図る。

「変化と関係」

- ▲パーセントを求める問題や、使いかけのハンドソープはあと何プッシュできるのかを求める問題は、必要な事柄を判断し、立式することに難しさを感じている。

＜授業改善＞・算数科だけでなく、資料を活用し問に対して解決へのプロセスを思考する場面を位置付け指導にあたる。また、資料の必要性を考えさせる意図的な指導を継続して行っていく。

「データの活用」

- 目的に応じて表から必要なデータを読み取り、見出した数値を比較する問題は、平均を上回っている。

- ▲出荷量をグラフから読み取り、出荷が増えた理由を書く問題は、正答率が低く、平均を下回っている。

＜授業改善＞・算数科だけでなく、資料を整理したり読み取ったりする場面を関連付け指導にあたる。また、資料の必要性を考えさせる意図的な指導を継続して行っていく。

「問題形式」

○選択式と短答式の問題の正答率が、全国平均と同等の数値だった。

▲記述式は昨年度に比べ問題の複雑さもあり全国平均を下回っている。また3割と正答率も低い。

<授業改善>

- ・昨年度も述べたようにさまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化することが今後の学力向上に必要である。
- ・学習の問題解決に多様な方法で思考する場面を仕組み、様々な考え方を共有できるような授業づくりをしていく。
- ・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。
- ・生活体験と結び付けた問題を解くことにより、自分が体験したことをもとに、根拠をもって学習を進められるようにする。

【理科】

「エネルギーを柱とする領域」

○電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方について理解している。

○乾電池のつなぎ方で電流の強さが変化することで電磁石の力はどうなるかという問題は、平均を上回っている。

○電流が流れる回路を選ぶ問題は、平均を上回っている。

▲磁石に引き付けられる物質の性質を聞かれる問題は、正答率が低く、平均を下回っている。

<授業改善>・実験を通し、実際に体験することで物質の特性を理解していく。また、実験器具だけでなく、日常の具体物を想起させ、実際にどうなるのか思考させる場を設けることで、様々な場面での問題解決の力につながる。

「粒子を柱とする領域」

○海面水位の上昇について水温の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ問題は、平均を上回っている。

○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連づけ説明しているものを選ぶ問題は、平均を上回っている。

○海にある氷が溶けることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想する問題で、平均を上回っている。

○水の温まり方について、問題に対するまとめを言うために調べる必要があることを書く問題は、平均を上回っている。

▲磁石に引き付けられる物質の性質を聞かれる問題は、正答率が低く、平均を下回っている。

<授業改善>・日常の事象と実験結果の事象を結び付け考えることができていることがわかる。このことから理科の学習を今後もいかに生活体験と結び付けていけるかが課題となる。教科書を教えるのではなく、教科書で何を教えるのか、教師自身が目的をもち、授業改善にあたる。

「生命を柱とする領域」

○植物の「めしべ」と「おしべ」について選び受粉について書く問題は、平均を上回っている。

○ヘチマの観察と発芽実験の条件を制御した解決方法を選ぶ問題は、平均を上回っている。

○顕微鏡の操作方法を聞かれている問題は、平均を上回っている。

▲課題を見出す問題は、正答者も少なく平均を下回っている。

<授業改善>・学習の定着は数値を見てもわかる通りである。しかし、実験から見出される新たな課題を読み取る問題で課題が見えた。結果を基に次への課題探求のプロセスを授業で展開していける授業改善をしていく。

「地球を柱とする領域」

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について書く問題は、平均を上回っている。
- 土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由を選ぶ問題は、平均を上回っている。
- 水が陸から海に流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ問題は、平均を上回っている。
- しみ込み方の実験結果を基に違いを書く問題は、平均を上回っている。
- 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連づけられるかという問題について、平均を上回っている。

「問題形式」

- 選択式と短答式の問題の正答率が、全国平均より上回っている。
- ▲記述式は県平均同様ではあるが、全国平均より下回っている。

＜授業改善＞

- ・全教科で言えるが、学習の問題解決に多様な方法で思考する場面を仕組み、様々な考え方を共有できるような授業作りをしていく。
- ・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。
- ・生活体験と結び付けた課題解決を目指した授業作りをしていく。自分が体験したことをもとに、根拠をもって学習を進められるようにする。

【児童質問紙・クロス調査から】

- ・今年度は児童用タブレットで全員実施、質問については、77個あり、学習面・生活面、多岐に渡る質問項目がある。全体的に数値が高まってきているものと、教科への興味関心のように全体の数値が下がっているものもある。昨年同様、生活習慣がきちんと成立している児童ほど学力が高くなっている。国語や算数について興味・関心の強い児童ほど、学力が高くなる傾向にある。全校で学習習慣定着を図る高野山メソッドを校内統一で行っている。また、職員で内容の見直しを行うことで、学校全体での意識にもつながり、児童と家庭への周知にもつながっている。学習習慣への意識が高まっていることから、今後も家庭と連携を行い児童の学習習慣の定着に努めていきたい。
- ・本校はICTを活用した授業を推進している。このことから、児童の意識としてもICTを活用した授業への参加意識が高まっているといえるだろう。
- ・各教科で導入から課題設定へ進む授業の流れを校内で統一して行っている。また、校内研修で算数を中心に研修を深め、指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。児童の興味関心を引くよう、生活に根差した素材を提示し、問題解決していくことで、教科への興味関心を持続させることに繋がっている。また、校内で「読書タイム」の統一や「校内よむよむラリー」の活動強化、4年前から取り組んでいる図書館の「そよかぜ号」の活用などの取り組みが国語への関心につながっていたと考えているが、今年度の数値は低くなっている。授業改善を行い、児童の困り感、児童の需要を意識し教材研究を進めていく必要があると考える。